

225	アクチノマイシン D	一般人口と比較し、絨毛癌患者で、子宮保存的かつ化学療法後の母体からの出生児に高率に心臓の先天異常を認めた。
226	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係が完全には否定できない死亡例が報告された。(形成不全による死亡例)
227	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法により移植前処置を受けた患者が、本剤との因果関係が否定できない毒性により移植後に死亡した。
228	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法を使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。(心不全による死亡例)
229	ホリナートカルシウム	本剤を含む併用療法を使用した臨床試験において、本剤との因果関係が完全には否定できない死亡例が報告された。
230	デキサメタゾン	デキサメタゾンまたはプレドニゾロンによる導入療法を行った結果、CTCgradeと思われるgrade3-4の感染、高血糖、運動機能障害、静脈血栓症が認められている。
231	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、毒性として好中球減少性敗血症による死亡が認められている。
232	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、毒性として感染による死亡が認められている。
233	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、毒性として感染、心不全、腎不全等による死亡が認められている。
234	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、毒性として敗血症、心臓死による死亡が認められている。
235	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、毒性による死亡が認められている。
236	ヒアルロン酸ナトリウム	ヒアルロン酸ナトリウムは創傷部腫瘍遺残モデルにおける癌細胞増殖に関与していることが示唆された。
237	アロプリノール	痛風のためアロプリノール(200mg/日)を服用したところ約1ヶ月後より咳、呼吸困難が出現した1例報告
238	プレドニゾロン	プレドニゾロンにより重篤な多発性腰椎椎体圧潰を認めた1症例報告
239	塩酸ミノサイクリン	ざ瘡の治療目的で塩酸ミノサイクリンを投与したところ、肝障害が発現した。
240	ラクツロース	肝性脳症患者における非吸収性二糖類(ラクツロースおよびラクチオール)の効果を評価するために行われた、22件の臨床試験の系統的レビューの結果
241	クエン酸シルデナフィル	シルデナフィル投与例における心筋梗塞および虚血性心疾患の死亡割合と、英国の一般男性母集団におけるその割合との比較により、本剤が心筋梗塞および虚血性心疾患の発現を増加させるという確証は認められなかった。
242	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリンを10日間投与したところ、薬剤性肺炎が発現した。
243	塩酸ミノサイクリン	塩酸ミノサイクリンを7日間投与したところ、薬剤性肺炎が発現した。
244	プレドニゾロン	Sweet病の患者においてプレドニゾロン投与中に抗酸菌感染を認め、その後多臓器不全のため死亡した。
245	ホスフェストロール	50年代および60年代から受け継がれたジエチルスチルベストロール(DES)の後遺症
246	エストラジオール	BMI24Kg/m ² 未満の女性で、エストロゲンとプロゲステン併用療法による子宮平滑筋腫が発現するリスクが上昇することが示唆された。
247	塩酸メホルミン	腎不全患者においてメホルミンの排泄が低下したため毒性をもたらし、重症の乳酸アシドーシスと膵炎に至った症例報告

248	トルナフタート	Hungarian Case-Control Surveillance of Congenital Abnormalities (HCCSCA)の人口集団に基礎を置いたデータセット中、先天異常の認められた22,843例のうち13例の母親が、また先天異常が認められなかった38,151例のうち13例の母親が妊娠中にトルナフタートスプレーの投与を受けていた。先天異常の調整オッズ比は1.9であり、トルナフタートの潜在的催奇形性の可能性が示唆された。
249	リン酸デキサメタゾンナトリウム	妊娠中及び生後のステロイド投与が脳の大きさに影響を及ぼす可能性がある。
250	リン酸デキサメタゾンナトリウム	子供時代に急性リンパ性白血病(ALL)のためにdexamethasoneを治療した患者群で認知及び学力が低い傾向にある。
251	リン酸デキサメタゾンナトリウム	糖質コルチコイドで治療された患者は皮膚癌のリスクが増加する可能性がある。
252	ヒアルロン酸ナトリウム	HA關注後にTKAに至るカンジダ性膝関節炎が発症する可能性がある。
253	小柴胡湯	小柴胡湯を服用後、間質性肺炎を発症した1例
254	葛根湯	葛根湯服用後薬剤性肝障害を発症した1例
255	メシル酸ナファモスタット	1999年～2002年の間に経験したメシル酸ナファモスタットに対する重篤なアレルギー症状11例
256	ヒアルロン酸ナトリウム	創傷部遺残腫瘍モデルにおいてヒアルロン酸群はコントロール群に比べ創傷部下皮腫瘍の体積と腫瘍重量が有意に大きかった。また、創傷部遺残腫瘍モデルのヒアルロン酸群コントロール群に比べ、腫瘍部のPCNA indexが高く、CD44蛋白び発現量は高い傾向であった。
257	シロスタゾール	徐脈傾向が続いたため、シロスタゾールの投与を開始したところ心室拍数は増加したが、動悸症状に一致するTdPを認めた。
258	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係が完全には否定できない死亡例が報告された。(感染症による死亡例)
259	リセドロン酸ナトリウム水和物	ビスフォスフォネート系薬剤の長期投与に関連する顎の骨壊死
260	シスプラチン	フルオロウラシル、シスプラチン投与後に、意識障害を伴う高アンモニア血症を認めた。
261	塩酸プロカルバジン	小児癌治療後のSTS(soft tissue sarcoma)リスク上昇は、放射線療法への曝露とプロカルバジンへの曝露に関連している。
262	ケトプロフェン	NSAIDsによる肝障害の発現が女性において有意に高い。
263	シクロホスファミド	末梢血幹細胞自家輸血を行うハイリスクの乳癌患者において、本剤:シクロホスファミドとイホスファミドを含む多剤高用量化学療法と放射線治療を併用すると、続発性の急性骨髄性白血病が発症する。
264	シクロホスファミド	侵襲性非ホジキンリンパ腫患者にとって、ACVBP(アドリアマイシン、シクロホスファミド、ビンデシン、プレオマイシン、プレドニゾン)療法は非常に有効性の高い療法である一方、続発性骨髄異形成症候群や続発性急性骨髄性白血病、及び男性患者における肺癌の発生数を増加させる。
265	ケトプロフェン	NSAIDsによる肝障害の発現が女性において有意に高い。
266	ハロペリドール	抗精神病薬による悪性症候群を生じ、発熱、乏尿、CK上昇を認めた。
267	ブデソニド	COPD患者におけるICS使用と非脊椎骨折リスクにおいては、指標日から90日以内のBDP投与群又はブデソニド使用群に限定して関連性がみられた。
268	沈降破傷風トキソイド	破傷風トキソイド接種後の急性散在性脳脊髄炎(ADEM)発症例
269	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後の心膜炎発現の症例
270	テオフィリン	咳、喘鳴のためテオフィリンを服用したところ強直性けいれんが発現した。
271	ニフェジピン	高血圧症のため約15年間ニフェジピンを服用していたが、歯肉が徐々に増殖したため部分的歯肉切除を施行した。
272	塩酸ケタミン	塩酸ケタミン等を用いて実施した全静脈麻酔症例について
273	リセドロン酸ナトリウム水和物	ビスフォスフォネート系薬剤の長期投与に関連する顎の骨壊死
274	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチン接種後のギラン・バレー症候群に共存する心膜炎又はネフローゼ症候群

275	リン酸ベタメタゾンナトリウム	ステロイド投与後、持続性ARED発現群で子宮内胎児死亡2例と重篤なアシドーシス2例が認められた。早産期IUGR/AREDの胎児では出生前ステロイド投与は健常の胎児と異なる心臓血管反応を示す。
276	硫酸ゲンタマイシン	満期と満期に近い期に生れた新生児において、低Ca血症と24時間間隔のゲンタマイシン治療とに関連性を認めた。
277	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	チック症に対する免疫グロブリン (IVIG) の有効性および安全性を2重盲検試験により調べたところ有意な効果を確認できなかった。
278	非ピリン系感冒剤	アルコール常飲者におけるアセトアミノフェン肝毒性
279	非ピリン系感冒剤	慢性アルコール依存者におけるパラセタモールの毒性
280	非ピリン系感冒剤	アルコール常時摂取者によるアセトアミノフェン肝毒性
281	フルバスタチンナトリウム	フルバスタチンが、膵β細胞機能に影響を与え、量依存的にインスリン分泌能含量及び遺伝子発現量が減少した。
282	シスプラチン	化学療法内容(プラチナ系薬剤使用の有無)の各因子について、全白質変化および高度白質変化の発生頻度をみるとプラチナ系薬剤を含む化学療法を用いた症例で有意に白質変化の発生頻度が高かった。
283	d-マレイン酸クロルフェニラミン	ラットによる試験であるが、クロルフェニラミンとメタンフェタミンの薬物相互作用の結果、メタンフェタミン誘発性の精神運動活性化が増強される可能性がある。
284	エストラジオール	BMI24kg/m ² 未満の女性で、エストロゲンとプロゲステロン併用療法による子宮平滑筋腫が発現するリスクが上昇することが示唆された。
285	エストラジオール	過去5年以内にホルモン療法を中止した骨粗鬆症の既往のない女性において、ホルモン療法未使用者と同程度以上の大腿部骨折リスクが示唆された。
286	プロピオン酸ベクロメタゾン	COPD患者において吸入ステロイド剤を使用すると骨折のリスクが高くなる。
287	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクによる肝障害について、IL-10遺伝子およびIL-4遺伝子に変異のある患者に発生頻度が高いことが示唆された。
288	ロラゼパム	統合失調症患者にロラゼパム等を投与し、錐体外路症状の副作用が発現した。
289	塩化スキサメニウム	塩化スキサメニウムおよび塩酸ニカルジピンを使用した修正電気痙攣療法(m-ECT)における合併症調査にて、頭痛、頻脈、高血圧、嘔気嘔吐、口腔内・歯牙損傷、SpO ₂ 低下、筋弛緩作用遷延、不整脈、徐脈、覚醒時不穏等の合併症がみられた。このうち、SpO ₂ 低下、不整脈、徐脈については死亡につながる恐れのある事象であった。
290	人血清アルブミン	ICUに収容された患者の循環血液量の回復のための治療として、アルブミン投与と生理食塩液投与は臨床的に同等であることが示された。
291	人血清アルブミン	アルブミンを投与されたICU患者は、アルブミンを投与されなかったICU患者に比べて死亡率が高かった。
292	プレドニゾロン	慢性関節リウマチ、シェーグレン症候群の治療に対し、プレドニゾロンを投与中に発生した空腸嚢腫様気腫症の1例
293	テガフル・ウラシル	オキサリプラチン/テガフル・ウラシル/ロイコボリン併用療法にて好中球減少性感染症及び上部消化管出血で死亡
294	テガフル・ウラシル	ドセタキセル/シスプラチン/ユーエフティ(UFT)/ロイコボリン(LV)の併用療法にて敗血症で死亡
295	テガフル・ウラシル	Paclitaxel/tegafur-uracil/folinic acidの併用療法の第II相試験にて毒性死が3例認められた。
296	塩酸モルヒネ	持続硬膜外麻酔に用いるモルヒネは投与量が多いほど良好な鎮痛効果が得られたが、尿閉の発生率も高まった。
297	デキサメタゾン	ALLに対して、デキサメタゾンを含む維持化学療法を行った結果、敗血症性ショック、死亡が認められた。
298	シクロホスファミド	急性リンパ性白血病治療のため、導入化学療法(シクロホスファミド、酢酸デキサメタゾンを含む)を受けた患者において高血糖の発生率が高くなり、その結果、感染症発生率と全死亡率が増加する。

299	ラクツロース	非吸収性二糖類(ラクツロース及びラクチール)の肝性脳症に対する有用性の根拠が不十分である。
300	ハロペリドール	精神病院において身体拘束中の精神病患者は向精神病薬の作用、鎮静と身体拘束に伴う身体不動化による血流うっ滞、身体拘束による静脈損傷、あるいは脱水などの原因により、深部静脈血栓症から急性肺血栓塞栓症を発症するリスクが高いと思われる。
301	イブプロフェン	非選択的NSAIDsの使用によるうっ血性心不全のリスク上昇
302	ロルノキシカム	フロセミドとロルノキシカム併用投与の結果、フロセミドの利尿効果が減弱した。
303	塩酸ゲムシタビン	Gemcitabineに関連した血栓性微小血管症の発現頻度の増加
304	塩酸イミプラミン	三環系抗うつ剤のイミプラミン及び抗パーキンソン剤のアマンタジンにより不完全悪性症候群を生じ、それに伴い、たこつぼ型心筋症を認めた。
305	ブスルファン	サラセミアの骨髄移植におけるブスルファン経口製剤と静注製剤の比較した試験で、経口投与群の1例が大量腹腔内出血で死亡し、静注投与群で、1例、8ヵ月後の時点で移植片拒絶反応を示し、2回目の移植後に生着不全を来して死亡した。
306	ブスルファン	多発性骨髄腫に対しメルファランとブスルファン/サイトキサンによるタンデムサイクル大量療法を施行したのち、インターフェロン α -2(IF)維持療法にサリドマイドを併用した患者と併用していない患者計104例に、高い完全寛解率ならびに無増悪生存率と全生存率の改善がみられる。
307	塩酸イリノテカン	CPT11/TOM併用療法における、UGT1A1遺伝子多型性についてのスクリーニングは、CPT11誘発性の胃腸毒性に感受性のある患者を確認する手段として臨床的に有用である。
308	塩酸イリノテカン	CAP/CPT11併用療法におけるUGT1A7とUGT1A9遺伝子型についてのスクリーニングは、有効性と毒性の予測因子として臨床的に有用である。
309	塩酸モルヒネ	モルヒネの持続硬膜外投与により、重篤な低血圧の発生頻度が81例中21例(26%)であった。
310	塩酸ドネペジル	プラセボと比較してナーシングホームへの入所または能力障害の悪化におけるドネペジルの治療に有意な差はみられなかった。同様に、行動的および精神的症状、介護人の精神病理、公的な介護費用、無報酬の介護時間、有害事象または死亡、ドネペジル投与量5mgまたは10mgに関して、ドネペジルとプラセボで有意な差は見られなかった。
311	アロプリノール	痛風の診断にてアロプリノール投与後、薬剤性肺炎を発症した1症例報告
312	アロプリノール	アロプリノール服用によりHHV-6およびCMVの再活性化を伴う紅皮症が発現した1症例報告
313	エストラジオール	過去5年以内にホルモン療法を中止した骨粗鬆症の既往のない女性において、ホルモン療法未使用者と同程度以上の大腿部骨折リスクが示唆された。
314	エストリオール	WHIMS試験のエストロゲン単独投与群でも全体的認知機能が低下した。
315	エストリオール	WHIMS試験のエストロゲン単独投与群でも痴呆と軽度認知障害のリスクが上昇した。
316	イブプロフェン	COX-2阻害剤、または非選択的NSAIDsを投薬した高齢患者でうっ血性心不全での入院の割合を比較した。
317	インフルエンザワクチン	インフルエンザワクチン接種後に両側視神経炎にて発症し、ステロイド漸減中に再燃した散在性脳炎の1症例報告
318	メトトレキサート	1999年8月から2003年3月に、移植後リンパ増殖性疾患(PTLD)の小児患者5例を治療したB細胞に対する高用量化学療法において4例の敗血症が発現し、中央値で1年間の追跡調査では、1例が慢性的臓器拒絶反応により、もう1例は敗血症により死亡した。

319	塩酸ミトキサントロン	本剤を使用した併用療法において、本剤との因果関係が完全には否定できない二次性悪性疾患が報告された。(急性白血病による死亡例)
320	デキサメタゾン	移植後の多発性骨髄腫に対して、デキサメタゾンを含む維持化学療法を行った結果、敗血症による死亡が認められた。
321	プレドニゾン	間接リウマチ患者においてプレドニゾン投与中に骨量低下によると考えられる両側大腿骨頸部骨折を認めた。
322	エストラジオール	マンモグラフィーによるfalse positive(もしくは疑陽性)の増加が示唆された。
323	ジソピラミド	ジソピラミド服用後にBrugada症候群を発現した。
324	デキサメタゾン	免疫能が正常な原発性中枢神経リンパ腫の患者に対して、デキサメタゾンを含む化学療法を行った結果、敗血症による死亡が認められた。
325	塩酸ピオグリタゾン	FDAの自発報告データベースを解析の結果、シンバスタチンの副作用報告例と比較すると、アトルバスタチンの副作用報告例にはピオグリタゾンあるいはロシグリタゾンの併用例が3.1倍多い。
326	デキサメタゾン	未治療の多発性骨髄腫の患者に対し、デキサメタゾンと13-シス-レチノイン酸による治療を行った結果、肺炎等の副作用が認められた。
327	エチゾラム	透析患者に常用量のエチゾラムを投与したところ、意識障害を生じた1症例報告
328	セファクロル	歯科では歯根管にメロニダゾール・セファクロル・シプロフロキサシンの混合粉末の充填処置を受けており、これらの薬剤によるブリックテストを行ったところ、セファクロルで強陽性をきたし、同剤によるアナフィラキシーと診断した。
329	バルプロ酸ナトリウム	バルプロ酸とアスピリンの大量投与による重症急性膵炎の1例
330	オレイン酸モノエタノールアミン	内視鏡的食道静脈瘤硬化療法後に発現した腹水、黄疸、肝性脳症、消化管出血、縦隔炎、腎不全について
331	リン酸デキサメタゾンナトリウム	新生児へのデキサメタゾン投与が知能や脳神経等に影響を及ぼす可能性がある。
332	スルファメトキサゾール・トリメプリム	メトトレキサート投与中にカリニ肺炎を合併した関節リウマチ症例の2例に対し、ST合剤を投与したところ全身性の発疹、汎血球減少症が発現した。
333	エストラジオール	HRT使用者において、false positive(偽陽性)マンモグラムのリスク増加が示唆された。
334	塩酸シプロフロキサシン	塩酸シプロフロキサシン服用中にDRESSを発症した。
335	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェンの関与が疑われるBOOPの発症
336	プレドニゾン	ステロイドパルス療法を契機にガス壊疽を発症した2型糖尿病の1症例報告
337	乾燥細胞培養痘そうワクチン	ワクチン接種者との接触によるワクシニア眼感染症
338	非ピリン系感冒剤	アセトアミノフェンとアルコールの併用により肝障害が発現する可能性がある。
339	非ピリン系感冒剤	治療量アセトアミノフェンを服用しているアルコール常用者における肝障害の発現
340	ハロペリドール	ハロペリドール、ビペリデン内服後に悪性症候群を発症
341	塩酸ビペリデン	ハロペリドール、ビペリデン内服後に悪性症候群を発症
342	塩酸ミノサイクリン	他の併用薬と共に塩酸ミノサイクリン(200mg/日)を11日間経口投与したところ、間質性肺炎が発現
343	ホリナートカルシウム	治療関連死は2例であり、好中球減少性感染症および上部消化管出血によるものであった。
344	ホリナートカルシウム	本剤を使用した併用療法に関する臨床試験において、本剤との因果関係が完全には否定できない死亡例が報告された。(敗血症による死亡例)
345	ホリナートカルシウム	毒性は年齢に依存しており、試験開始時に高齢者で毒性による死亡が3例発生した。